河北新報
2017年(平成29年)8月5日(土曜日)

被災の山元町文化財「大條家ゆかりの茶室」

修復・活用へ 町民ら奮闘

大條家ゆかりの茶室の歴史などを学んだ勉強会

仙台藩に仕えた大條(おおえだ)家ゆかりの建築物で、山元町坂元地区にある町指定文化財の茶室=?=の価値を見直そうと、町民らでつくる「ゆかりの茶室にひかりを当てるっちゃGO山元『いいっ茶』組」が活発に活動をしている。東日本大震災の揺れで大きな被害を受けた茶室の修復と活用の機運を高めることを目的に、勉強会を開催したり署名活動をしたりしている。

◇

山元町坂元の徳本寺で7月中旬にあった勉強会は「いいっ茶」組が企画、町内で街づくりを行っているNPO法人ポラリスが主催した。ともに「いいっ茶」組発起人で、徳本寺住職の早坂文明さん(66)、やまと民話の会代表の庄司アイさん(83)らが講師となり、茶室の歴史を語った。

庄司さんはかつて茶室でお茶会が開かれたり、地域住民が庭を手入れしたりしていた様子も紹介。約80人の参加者は熱心に耳を傾けた。

勉強会や署名活動展開

「いいっ茶」組の発足は、震災後に茶室の調査を行った山形大の永井康雄教授(建築史)らが「大條家ゆかりの茶室の保存と活用を願う会」を昨夏発足させたことがきっかけだった。「願う会」メンバーが活動を始める際、山元町に縁のあった知人の清水ますみさん(東京都、亘理町出身)に「住民主体の活動をできないか」と声をかけた。

東日本大震災で大きな被害を受けた茶室

ポラリスの活動に携わっていた清水さんが、早坂さんや庄司さんらに「いいっ茶」組の発起人を依頼。「いいっ茶」組は清水さんを代表に発足し、「願う会」とともに署名や寄付を町内外から集め町に届けた。

会の活動もあり、茶室を見直す機運は高まっている。「茶室が元の姿になれば、町がもっと元気になる」と清水さん。庄司さんは「住民が集まり、心を癒やす場になるよう活動していきたい」と話している。

? 大條家ゆかりの茶室　10畳の座敷などがある木造平屋の書院風茶室。1832年、大條家当主の道直が12代仙台藩主伊達斉邦から賜ったと伝えられる。町は本年度、一時的に保護する工事を行い、町文化財保護委員会が具体的な保存活用方法を検討する。